SONY

4-416-308-**01**(1)

交換レンズ

❷ 取扱説明書

500mm F4 G SSM

SAL500F40G

http://www.sony.co.jp/
Printed in Japan
4416308010

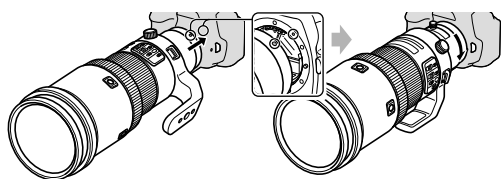
❷ 取扱説明書では、主にレンズの使いかたを説明しています。各部のなまえ、被写界深度表は、「❶ 取扱説明書」をご覧ください。使いかた以外の、使用上のご注意などは「❶ 取扱説明書」、別冊「使用前のご注意」でご覧いただけます。

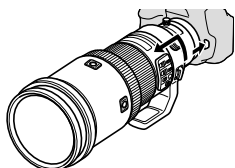
C レンズの取り付けかた／取りはずしかた

取り付けかた

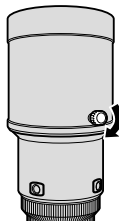
1 **レンズの前後レンズキャップとカメラのボディキャップをはずす。**

2 **レンズとカメラのオレンジの点（マウント標点）を合わせてはめ込み、レンズを軽くカメラに押し当てながら、時計方向に「カチッ」とロックがかかるまでゆっくり回す。**

- レンズを取り付けるときは、カメラのレンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズを斜めに差し込まないでください。

取りはずしかた

カメラのレンズ取りはずしボタンを押したまま、レンズを反時計方向に回してはずす。

D レンズフードを取り付ける

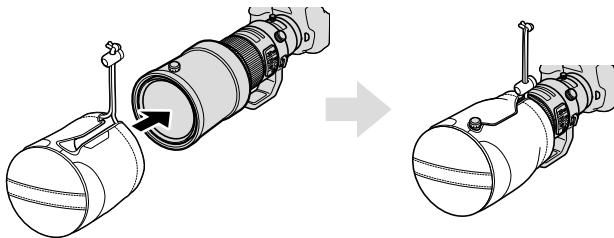
画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

レンズフードの側面についている着脱ノブをゆるめ、まっすぐ静かにレンズ先端に取り付ける。斜めになっていないかを確認してから、ノブをしっかり締める。

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光が遮られることがありますので、レンズフードをはずしてください。

レンズフロントキャップの取り付けかた

撮影後レンズフードを収納するときは、逆向きにレンズに取り付けたあと、ノブをしっかり締めて、レンズとレンズフードを固定してください。

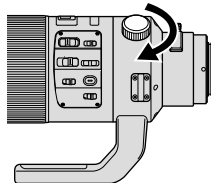
レンズフロントキャップにレンズを奥までしっかりとはめ込み、ファスナーを止め、ひもの止め具で固定してください。

- レンズフードに取り付ける場合は、キャップの穴にレンズフードの着脱ノブを合わせてから取り付けてください。

E 三脚に取り付ける

三脚を使用する際は、カメラ側ではなく、レンズ側を三脚に取り付けてください。

縦位置・横位置の変更

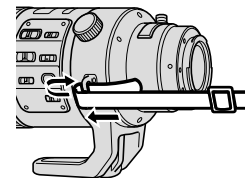
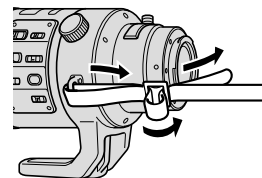
三脚座クランプノブをゆるめると、カメラごと任意に回転させることができます。三脚使用時に、安定感を損なわずに縦位置／横位置の変更をすばやくできます。

- 三脚座には、90°ごとに三脚座の回転が止まる位置があります。そこで止めると、カメラの正確な位置決めができます。
- 位置を決めた後は、三脚座クランプノブをしっかりと締めてください。

F ストラップを取り付ける

持ち運びのときなどにストラップをご使用ください。(1),(2)の順で取り付けます。

- あやまった取り付けかたをすると、レンズからストラップがはずれて、レンズが落下する恐れがありますのでご注意ください。
- レンズをカメラに取り付けた状態で持ち運ぶときは、レンズのストラップを使用してください。カメラのストラップは使用しないでください。

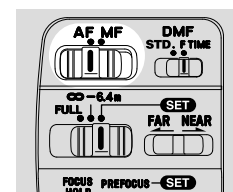
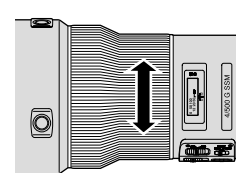
(1)

(2)

G ピントを合わせる

AF(オートフォーカス) ／ MF(マニュアルフォーカス)の切り替え

AF(オートフォーカス:自動ピント合わせ) ／ MF(マニュアルフォーカス:手動によるピント合わせ)の設定をレンズ側で切り替えることができます。

AFで撮影する場合は、カメラ側とレンズ側両方の設定をAFにします。カメラ側あるいはレンズ側のいずれか一方、または両方の設定がMFの場合、MFになります。

(1)

(2)

レンズ側の設定

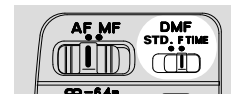
フォーカスモードスイッチを、AFまたはMFのいずれか設定したい方に合わせる(1)。

- カメラのフォーカスモードの設定方法については、カメラの取扱説明書をご覧ください。
- MFでは、ファインダー等を見ながらフォーカスリングを回して、ピントを合わせます(2)。

AF/MFコントロールボタンを装備したカメラをお使いの場合

- AF時にMFに切り替えるには、カメラとレンズ両方の設定がAFのときに、AF/MFコントロールボタンを押します。
- MF時にAFに切り替えるには、カメラの設定がMF、レンズの設定がAFのときに、AF/MFコントロールボタンを押します。

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)

AF撮影でも、シャッターボタンを半押ししている間にフォーカスリングを回すと、自動的にMFになり、ピントの微調整がすばやく手動でできます(DMF)。DMFを作動させるタイミングは、次の2つから選択します。DMFモード切り替えスイッチをいずれか設定したい方に合わせます。

スタンダード DMF(STD)

AF制御自動切り替え(AF-A)、またはシングルAF(AF-S)でフォーカスロックしているときに、フォーカスリングを回すとDMFが作動します。通常は、このモードの使用をお勧めします。

- 次の場合、スタンダードDMFは作動しません：コンティニュアスAF(AF-C)を選択した場合／ピントが合っていない場合／ AF-Aの連続撮影中2回目のピント合わせが終了したあと

フルタイム DMF(F TIME)

AFのモード設定(AF-A/S/C)やピントの状態にかかわらず、シャッターボタンを半押ししているときに、フォーカスリングを回すとDMFが作動します。動きが速い被写体を撮影するときに効果を発揮します。

無限遠の被写体をMFで撮影する場合

さまざまな温度条件下でも良好なピントが確保できるよう、フォーカスリングは無限遠側に余分に回転する仕組みになっています。手動でピント合わせをする場合は、無限遠撮影時でもフォーカスリングを無限遠の終端まで（止まるまで）回さず、ファインダー等を見ながら正確にピントを合わせてください。

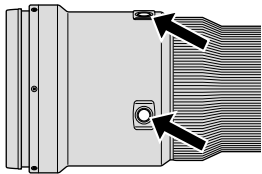
被写界深度目盛（❶ 取扱説明書-B）

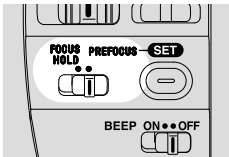
レンズはある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが鮮鋭に写るだけでなく、その前後にも写真として実用上ピントが合って写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。被写界深度は使用レンズの撮影距離、絞りによって変化します。被写界深度は、被写界深度目盛上で該当する絞りによって表示されます。

- 被写界深度目盛、被写界深度表は35mm判カメラ用です。APS-Cサイズ相当の撮像素子を搭載したレンズ交換式デジタルカメラでは、被写界深度は浅くなります。

H フォーカスホールドボタンを使用する

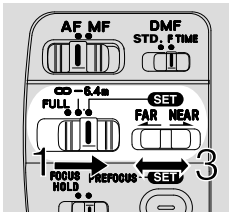
フォーカスホールドボタンが4箇所に配置されています。

AF中にフォーカスホールドボタンを押すと、AFの駆動を止めることができます。ピントが固定され、そのままのピントでシャッターを切れます。シャッターボタンを半押しした状態で、フォーカスホールドボタンを離すと、AFが再開します。

フォーカスホールド／プリフォーカス切り替えスイッチをFOCUS HOLD側に合わせ、フォーカスホールドボタンを押す。

- カスタム設定機能を搭載しているカメラでは、このボタンの機能を変更することができます。詳細はカメラの取扱説明書をご覧ください。

I フォーカスレンジ(AF駆動範囲)を切り替える

AFの駆動範囲を切り替えて、ピント合わせの時間を短縮することができます。撮影距離が一定の範囲内に限られている場合に便利です。任意のフォーカスレンジをあらかじめ設定して、選択することもできます。

フォーカスレンジ切り替えスイッチで、撮影距離範囲を選択する。

- FULL：距離制限はありません。全域でAFが駆動します。
- ∞-6.4m:無限遠から6.4mまでAFが駆動します。
- SET:遠距離側、近距離側ともに任意に設定した撮影距離範囲内でAFが駆動します。

任意の撮影距離範囲の設定

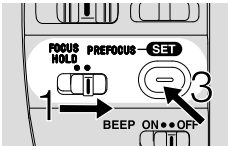
1 フォーカスレンジ切り替えスイッチをSETの位置に合わせる。

2 設定したい範囲の遠距離側または近距離側にピントを合わせる。
- ピント合わせの方法は、AF、MF、DMFのいずれでも構いません。
- 設定の順番は、遠距離側、近距離側のどちらが先でも構いません。

3 遠距離側に設定したい場合はFAR側に、近距離側の場合はNEAR側に、フォーカスレンジ任意設定レバーをずらす。
- レバーは自動で中央位置に戻ります。
- 電子ブザー ONに設定している場合、設定されたときにブザーが鳴ります。
- 設定したフォーカスレンジは、新たなフォーカスレンジを設定するまで有効です。

J プリフォーカスを使用する

あらかじめ撮影距離をレンズに記憶させておき、必要なときに瞬時に呼び出すことができます。

鉄道写真、運動会、競馬、カーレースなど動きの速い被写体を、あらかじめ決めておいた撮影距離で撮影する場合などに便利です。

記憶させるには

1 フォーカスホールド／プリフォーカス切り替えスイッチをPREFOCUS側に合わせる。

2 記憶させたい撮影距離にピントを合わせる。
- ピント合わせの方法は、AF、MF、DMFのいずれでも構いません。

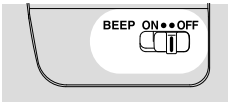
3 フォーカスプリセットボタンを押し、撮影距離を記憶させる。
- 記憶された撮影距離は、新たな撮影距離が記憶されるまで有効です。
- 電子ブザー ONに設定している場合、記憶されたときにブザーが鳴ります。

記憶を呼び出すには

1 フォーカスホールド／プリフォーカス切り替えスイッチをPREFOCUS側に合わせる。
- カスタム設定機能を搭載しているカメラでは、フォーカスホールドボタンの機能をFOCUS HOLDに設定してください。

2 フォーカスホールドボタンを押して、記憶させた撮影距離を呼び出す。
- AF撮影の場合は、フォーカスホールドボタンを押しながら撮影してください。フォーカスホールドボタンから指を離すと、AFが復帰し、撮影距離が変わります。
- 電子ブザー ONに設定している場合、撮影距離が呼び出されたときにブザーが鳴ります。

K 電子ブザーを使用する

フォーカスレンジ任意設定レバーまたはフォーカスプリセットボタンを操作して、任意の撮影距離を設定した時および呼び出した時、ブザーを鳴らすことができます。

ブザーを鳴らす場合は、ブザースイッチをBEEP ON側に合わせる。

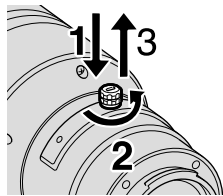
鳴らさない場合は、OFFに合わせる。

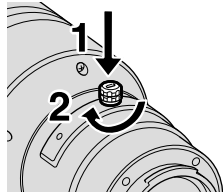
L 差し込み式フィルターを交換する

お買い上げ時は、ノーマルフィルターが標準装備されています。

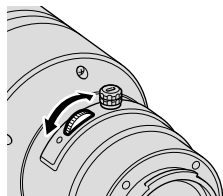
- フィルターはレンズ光学系の構成要素の一部ですので、撮影時にはノーマルフィルターもしくは円偏光フィルターのいずれか1枚を必ず装着してください。

差し込み式フィルターの交換方法

1 差し込みフィルターノブを押しながら、オレンジ色の指標がフィルター枠に対して平行になるように、レンズ先端に向かって反時計方向に90°回し、フィルター枠をまっすぐ上に引き出す。

2 差し込みフィルターノブのオレンジ色の指標が、フィルター枠に対して平行かどうか確認したあと、フィルターを取り付けた面をカメラ側にして、差し込みフィルター枠をレンズに差し込む。
- 円偏光フィルターをレンズに取り付けるときは、フィルター枠の矢印先端がレンズ先端側を向くように取り付けてください。

3 差し込みフィルターノブを押しながら、時計方向に90°回して、ロックする。
- 差し込みフィルターノブのオレンジ色の指標がフィルター枠に対して垂直になります。

円偏光フィルターの使いかた

1 ファインダー等を見ながら正確にピントを合わせる。

2 ファインダー等を見ながら、差し込みフィルター枠上の調節リングを回して偏光度合いを調節し、撮影する。

- 水面、ガラスの入った額、窓や光沢のあるプラスチック、陶器、紙など、非金属面から余分な反射光(偏光光)を取り除くことができます。
  また、カラーバランスを変えずに青空からの偏光光を除去することができるため、青空のコントラストを変更させることもできます。
- 通常は反射光の消えたところで撮影しますが、青空などの調子を見ながら撮影者の意図に合わせて撮影することもできます。
- 撮像素子に到達する光量が減少するので、市販の露出計を使ってマニュアルモードで撮影する場合や、一部のフラッシュに搭載されているマニュアルフラッシュ撮影機能を使う場合は、＋側に1 ～ 2段階程度露出補正を行ってください。